第　二　章
現状と課題

計画策定で把握しておかなければならない現状と課題の内、次の点を記載しています。

・小値賀町の位置や自然、歴史、産業、人口から見た地区の運営状況、生活を支える社会基盤

・「町民まちづくりアンケート調査」や「おぢか未来会議」でいただいたご意見等

・配慮すべき社会の流れ

自然に身を置いて暮らすこと

それは、決して美しいことだけではなく、
コントロールできない脅威が側にあるということ。

この島での暮らしも、
人間の思い通りに物事が動かないことが日常茶飯事。

海がしければ船は動かず、
台風の通り道になることもしばしば。

「それでも自然と共に暮らすのだ。」
そんな覚悟と意思を持った人々が助け合いながら、
今日までこの島で暮らしてきました。

第2章 現状と課題

1. 本町の特徴

（1）位置・自然・地勢

本町は、長崎県五島列島の北端に位置する離島で、総面積25.53㎢（小値賀島12.23㎢、属島13.30㎢）です。小値賀島を中心に周囲に散在する大小17の島々からなっています。

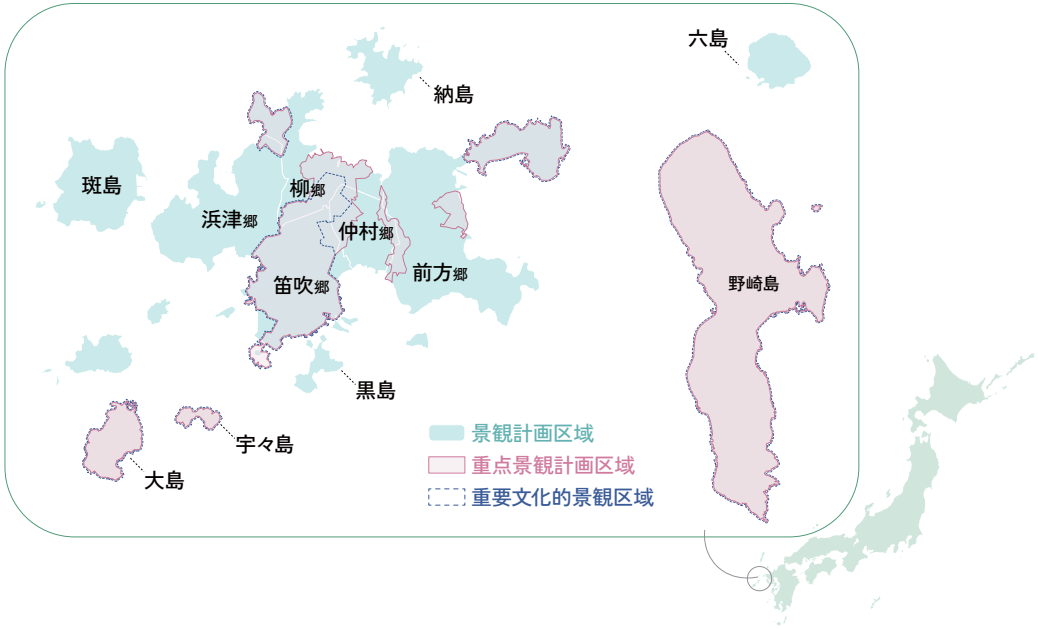
小値賀島の地形は平坦で、本島中央部に海抜105mの番岳のほか、西部、北東部、南東海岸に丘陵があります。いずれも火山の噴出によって生じた珍しい火山群島で、複雑な海岸線が織りなす美しい自然に恵まれ、島のほとんどが西海国立公園に指定されています。また長崎県で唯一「日本で最も美しい村連合」に加盟しています。

気候は対馬海流の影響で温暖で寒暖の差も少なく、年平均気温は17度前後です。風は、本土と比較して強く、特に冬期における北西からの季節風は強烈です。

（2）歴史と景観

島の歴史は深く、旧石器時代から人々が連綿と営み続けた歴史・文化があり、肥前風土記にもその名が記され、平安時代から鎌倉時代には日宋貿易船の寄港地でもありました。これら古くからの人々の生活や風土に結び付いた特有の景観を守るため、町内全域を景観計画区域に、特色ある区域は重点景観区域に指定しています。この取組みは国からも評価され、「小値賀諸島の文化的景観」として国の文化財の1つである重要文化的景観に選定されています。

また町の東部にある野崎島は、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の1つ「野崎島の集落跡」として指定され、他にも旧野首協会や沖ノ神島神社など多くの歴史資源に富んでいます。



（3）産業

平坦な地形から、町内全域に田畑が広がっています。山間部には繁殖牛が放牧され、漁業集落ごとに漁港が整備されるなど、1次産業が基幹産業の町です。

農業品目は、肉用牛、水稲を基幹作目として、実エンドウ、メロンなどの施設園芸やブロッコリーなどの露地野菜が産地化されています。

漁業は、恵まれた漁場を利用して、ブリ、ヒラス、イサキ等の一本釣りを中心に、採貝藻、曳縄、延縄、刺網、シイラ漬等の漁船漁業が営まれています。市場での評価が高い「イサキ」と「タチウオ」ついては、平成11年度から12年度にかけてブランド化に取り組み、イサキを「値賀咲（ちかさき）」、タチウオを「白銀（はくぎん）」とし、他産地との差別化を図り魚価の向上に努めています。農業漁業とも、物価高騰による経営の圧迫や高齢化、後継者不足が問題となっています。

観光については、自然と歴史を生かした体験型観光や、人情味ある町民が営み小値賀のありのままの暮らしが体験できる民泊など、島の特色を生かしたアイランドツーリズムを推進しています。新型コロナウイルス感染症の影響で減った観光客を取り戻すことが喫緊の課題です。

（4）地区別人口

超少子・高齢化が進む中、一部を除き、人口・世帯数の減少に歯止めがかからない地区が多くなっています。世帯数でみると、地区会長がいる全32地区中、「30世帯未満」が16地区で、半数を占めています。また「高齢化率50%以上の地区」は21地区と全体の約65%で、「高齢化率40%以上」に至っては29地区と、約90%に上ります。

これらの影響により、地区会長職をはじめとした役職を複数回受け持つ事例や、農家地区における農道維持作業等の「役目」に参加できないなど、町民の負担増に繋がっています。

一方、公的賃貸住宅が建設された地区では、30から40代の若い世代の人口が増え、地区運営の面で良い効果が表れています。

地区別人口および高齢化率（令和5年3月末日現在）

地区名	世帯数	人口	65以上人口	高齢化率
小浜町	120	203	93	45.8%
浦　町	20	27	12	44.4%
西　町	43	67	29	43.3%
新西町	24	45	23	51.1%
木下町	9	13	9	69.2%
上下町	10	19	8	42.1%
蛭子町	18	40	28	70.0%
北目町	18	33	18	54.5%
宮崎町	132	224	90	40.2%
柳田町	19	30	16	53.3%
会舎町	56	56	56	100.0%
新　町	35	71	30	42.3%
先小路町	25	48	20	41.7%
丘　町	38	85	22	25.9%
笛吹在	57	118	54	45.8%
大　浦	33	71	38	53.5%
浜津前目	57	118	67	56.8%
浜津後目	35	73	43	58.9%

地区名	世帯数	人口	65以上人口	高齢化率
柳　西	37	95	48	50.5%
柳　東	37	77	48	62.3%
牛　渡	9	14	12	85.7%
前方後目	34	60	36	60.0%
唐見崎	19	29	18	62.1%
筒井浦	32	58	35	60.3%
相　津	36	69	38	55.1%
木　場	30	69	25	36.2%
中　村	42	85	50	58.8%
松香丘	29	66	19	28.8%
黒　島	22	37	30	81.1%
大　島	25	54	29	53.7%
斑　在	15	19	17	89.5%
斑　浦	73	119	82	68.9%
納　島 六　島 野　崎	13	20	13	65.0%
合計	1,202	2,212	1,156	52.3%

（５）小値賀町の生活を支える社会基盤

生活環境や島の地理的要素から、それぞれエリアごとに分け、「小値賀本島の構造」を組み立てました。そこから土地利用の方針を明確にしています。

まちづくりの軸

小値賀島の中心部に、南の小値賀港ターミナル、そして北の柳波止場を両端とし、中心市街地の笛吹エリア、教育・防災エリア、公共・医療福祉・生活関連施設エリアが集積した「まちづくりの軸」が貫いています。

笛吹街外、周辺地区、二次離島地区

笛吹以外の地区と比較して、住居や人の集まりが確認できるゾーンです。

公共・医療福祉・生活関連施設エリア

公共施設や医療福祉施設など、住民の生活を支える施設が集まるエリアです。

教育・防災エリア

周辺に学校が集積し、防災に特に力を入れるべきエリアです。

文化エリア

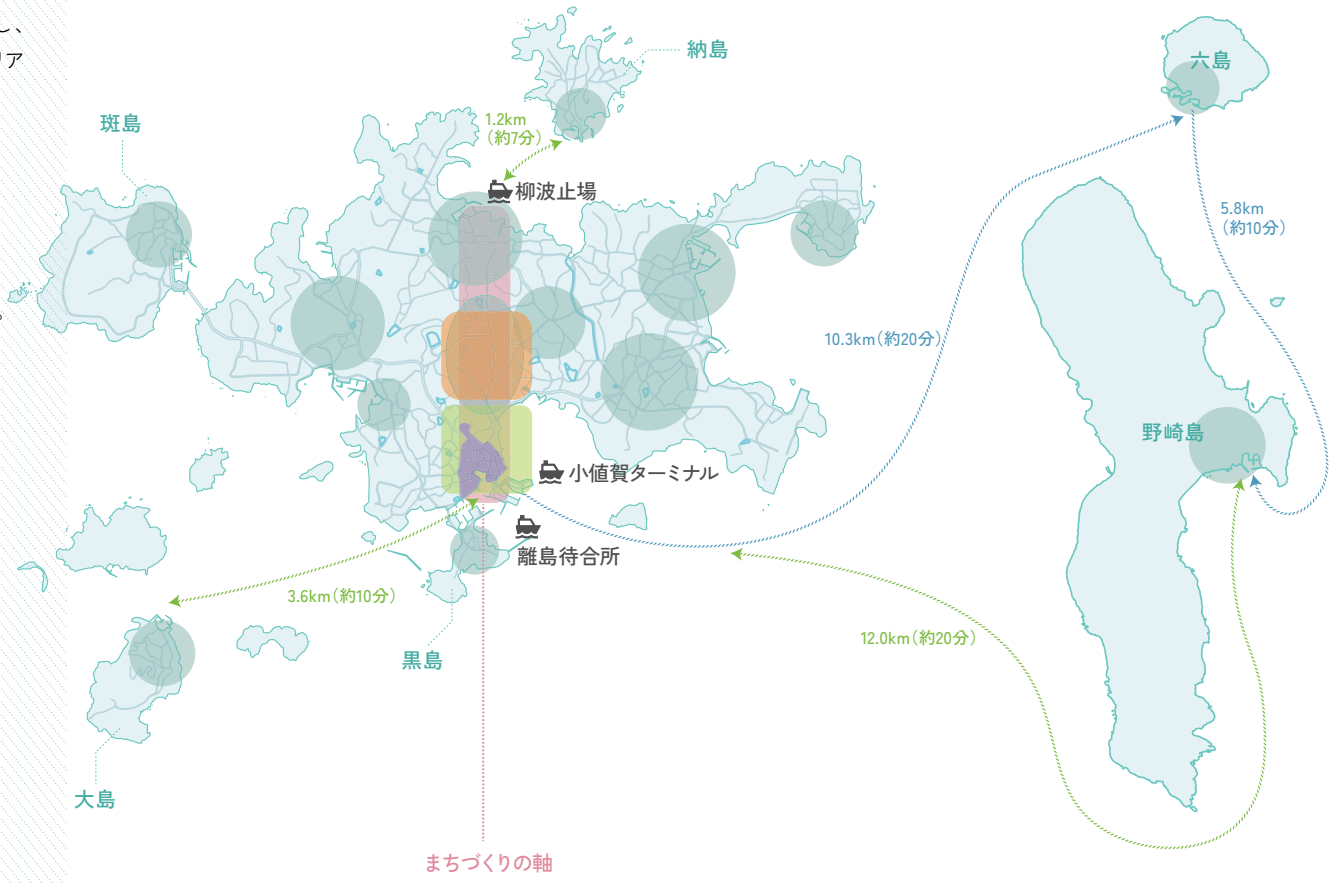
重要文化的景観地区で、笛吹地区中心部等が地区指定されています。

町内外交流ポイント

小値賀港ターミナル --- 佐世保市・福岡市・五島市間海上交通の拠点
・福岡県方面や福江、宇久、新上五島などへの航路です。
・小値賀町の島内海上交通の拠点となる港湾なので「主要港湾」として位置付けます。

柳波止場 ---------- 町内二次離島(納島)・宇久島神浦港間の海上交通の拠点
・宇久、納島等近隣諸島間の海上交通拠点です。
・小値賀町でも　近隣諸島交通の拠点となる港湾なので「域港湾」として位置付けます。

離島待合所 ---------- 町内二次離島(大島・野崎島・六島)間の海上交通の拠点
・大島、野崎島、六島等近隣諸島間の海上交通拠点です。



本町は、7の有人島と10の無人島からなっています。最も人口が多い小値賀島は、島の中心部を道路が南北に伸びており、南端には小値賀の海の玄関口である小値賀港ターミナルと笛吹港、北端には柳港があります。道路沿いには商業・公共・教育・福祉・医療・生活関連施設及び住宅地が立地し、町内一円に点在する集落間をバスが結ぶ等、コンパクトな構造により土地利用がされています。

黒島と斑島は架橋され、車両での往来が可能です。大島、納島、六島、野崎島は、それぞれ小値賀島と町営船で結ばれています。どの島にも商店や医療施設等はなく、町営船は日常生活物資の運搬や通院などで利用されており、生活航路として欠かせない重要な交通基盤となっています。

2．まちづくりへのご意見

（1）町民アンケート

令和４年度に実施した町民アンケートの調査結果です。

①幸福度について

78.2%の方が、「とても幸せである」「まあまあ幸せである」と答えました。

また、小値賀町の魅力について、「海、空、川、林等自然環境が豊かできれいなこと」と答えた方は57.4%、「挨拶や頻繁にお裾分けしあうなど、人々の交流が温かく、互いに助け合うこと」と答えた方は40.4%いました。

島内に今後も住み続けたい意向は、「家族・親戚がいて、自分や家族の土地・家や祖先の墓があるから」が58.5%、「災害が少なく治安が良い安全で安心な町だから」が58.3%でした。

改めて、豊かな自然や、安心安全に暮らせること、人と人との距離感、心地よい関係性が本町の魅力だと再認識しました。

町民の小値賀への期待、愛着について				
とても幸せ	まあまあ幸せ	どちらでもない	あまり幸せでない	幸せでない
14.0%	64.2%	18.0%	2.6%	1.2%

小値賀町の魅力について　5選	出現頻度	出現率
海、空、川、林等 自然環境が豊かできれいなこと	482	57.4%
挨拶や頻繁にお裾分けしあうなど、人々の交流が温かく、互いに助け合うこと	339	40.4%
新鮮な食べ物が手に入ること	335	39.9%
静かで、風の音や鳥のさえずりが心地良いこと	312	37.2%
時間の流れがゆったりしていること	306	36.5%

島内に今後も住み続けたい意向　5選	出現頻度	出現率
家族・親戚がいて、自分や家族の土地・家や先祖の墓があるから	298	58.5%
災害が少なく治安が良い安全で安心な町だから	288	58.3%
海などの自然環境や歴史文化等の風土が好きだから	237	47.9%
生まれてからずっと住んでいて町に愛着を感じているから	217	43.9%
近所や知人との付き合いや地域社会が自分にあっているから	208	43.1%

②課題について

「小値賀町の人口について、人口を維持・増加させるべきか」との質問に対し、そう思うと答えた方は71.3%で、多くの町民が人口減少を問題としてとらえていました。

人口について	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	わからない
人口を維持・増加させるべき	570 (71.3%)	170 (21.3%)	30 (3.8%)	30 (3.8%)

③「島外への転出意向」上位５選について

「町外への買い物や通院に不便だから」が38.2%、「町外の家族や親類の近くに住みたいから（町内に身寄りがないから）」が32.4%、「仕事がない、継続できない可能性が高い、または所得が低いから」が25.4%と、町内の暮らしの環境や家庭の都合、仕事に対する不安があがりました。

島外への転出意向について　5選	出現頻度	出現率
町外への買い物や通院に不便だから	66	38.2%
町外の家族や親類の近くに住みたいから (町内に身寄りがないから)	56	32.4%
仕事がない、継続できない可能性が高い、または所得が低いから	44	25.4%
超少子高齢化・人口減少で町の将来が不安だから	43	24.9%
仕事の都合で一時的に住んでいるから	41	23.7%

④「町民が求めるまちのあり方」上位５選について

保健・医療・福祉、魅力的な職場づくりや人材の確保育成、産業の自立可能性などがあがりました。

町民が求めるまちのあり方について　5選	出現頻度	出現率
健康・福祉・医療施策が充実し独居高齢者でも安心して住み続けられるまち	449	53.5%
若者が活躍・定着できる魅力的な職場づくり、各職種人材が確保・育成されるまち	372	44.3%
基幹産業と産業や生活を支える業種(電気・機械修理、大工等)がともに発展する自立可能なまち	271	32.3%
持続可能な財政運営が営まれるまち	219	26.1%
結婚・妊娠・出産・子育てを一貫して支援し、子育て世帯と子供を大切にするまち	213	25.4%

⑤「町民主体のまちづくりのために必要なこと」上位５選について

「将来の実現に町民全体で取り組んでいく」に68.8%の方が重要であると答えており、まちづくりへの関心の高さがうかがえました。

町民主体のまちづくりのために必要なこと　5選	重要	どちらとも言えない	重要でない	わからない
将来像の実現に町民全体で取り組んでいく	466 (68.8%)	131 (19.4%)	12 (1.8%)	68 (10%)
小値賀町を支えるまちづくりの推進組織やリーダーの育成を図る	422 (63.2%)	152 (22.8%)	14 (2.1%)	80 (12%)
小値賀町に関わる外部のあらゆる関係機関・団体・個人と連携・協働体制を構築する	353 (54.4%)	172 (26.5%)	12 (1.8%)	112 (17.3%)
若者の声を取り入れたまちづくりを推進する	482 (72.7%)	125 (18.9%)	6 (0.9%)	50 (7.5%)
若者が活動しやすい環境の形成に取組む	501 (74.8%)	107 (16%)	5 (0.7%)	57 (8.5%)

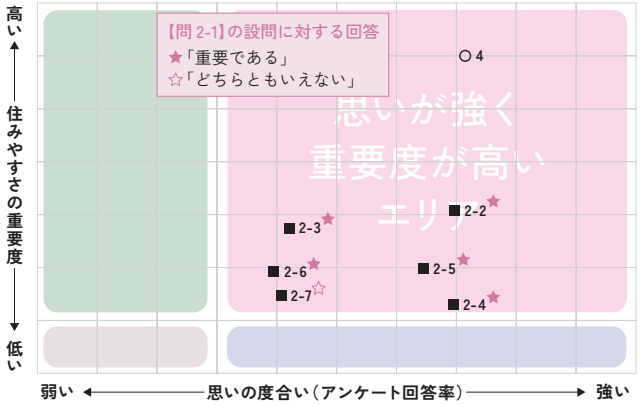
⑥AIを使った重要度の分析

小値賀町の住みやすさに対する思いを計るため、ＡＩ技術を用いて分析しました。視点は「住みやすさの重要度」と「思いの度合い（アンケート回答率）」の２つの軸です。

「住みやすさの重要度」と「思いの度合い」が高い項目（グラフの右上の部分）は、「住みやすさ」に対して町民が重要度が高く、かつ意識も高いことを示しています。

※AI技術とは、多変量解析や機械学習といった技術でデータの傾向を分析し、状況把握や予測を可能にします。

（ア）人口問題と社会を取り巻く現状に関する重要度



対象となる設問

【問2】　社会を取り巻く現状への重要度
【問4】　人口を維持・増加させるべきか

特に重要な設問・回答

【問2】社会を取り巻く現状への重要度に対する回答
- ■2-2　持続可能な自治体の構築
- ■2-3　価値観やワークライフスタイルの多様化
- ■2-4　安全・安心な暮らしに対する脅威
- ■2-5　環境と共生する持続可能な社会の構築
- ■2-6　デジタル社会の到来
- ■2-7　グローバル社会の到来

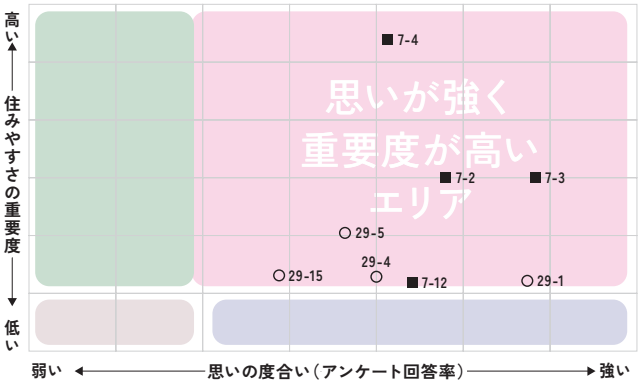
【問4】人口を維持・増加させるべきかに対する回答
- ○4　（人口を維持・増加させるべきかについて）そう思う

「人口問題への認識」「社会を取り巻く現状への認識」についてまとめました。

特に、「人口を維持・増加させるべき」という町民意識は非常に高く（出現頻度70%以上）、相関して重要度も非常に高い傾向にあります。

また「持続可能な社会」に対する町民意識と重要度も高い傾向にあります。

（イ）住み続けたさと小値賀の魅力に関する重要度



対象となる設問

【問7】　住み続けたい理由
【問29】　小値賀らしさ、魅力

特に重要な回答

【問7】住み続けたい理由に対する回答
- ■7-2　海などの自然環境や歴史文化等の風土が好き
- ■7-3　災害が少なく治安が良い安全で安心な町
- ■7-4　住まいや生活環境に満足している
- ■7-12　生まれてからずっと住んでいて町に愛着を感じている

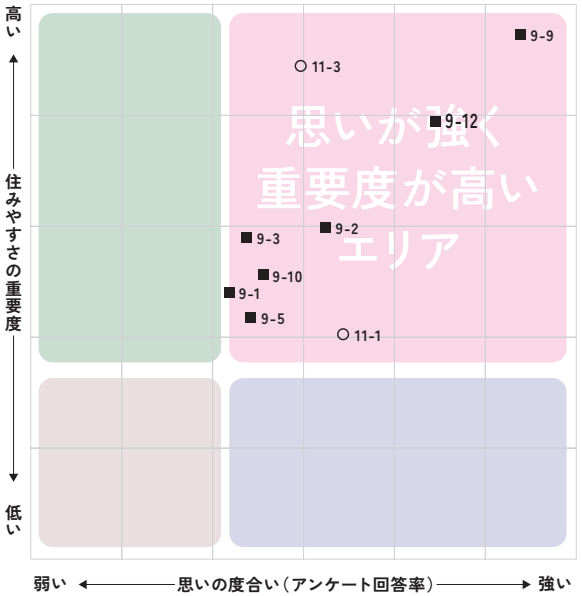
【問29】小値賀らしさ、魅力に対する回答
- ○29-1　海、空、川、林等自然環境が豊かできれい
- ○29-4　新鮮な食物が手に入る
- ○29-5　時間の流れがゆったりしている
- ○29-15　人との距離が近くコミュニケーションが活発

「小値賀町に住み続けたい」理由と、「小値賀町の魅力」についてまとめました。

「小値賀町に住み続けたい」理由として「安全で安心な町」「自然環境などの風土」「住まいや生活環境」に関する町民意識が高く「住みやすい」に対する重要度も高い傾向にありました。

また「小値賀町の魅力」のうち、町民意識が高く「住みやすい」と感じることに相関が高いものとしては「自然環境が豊か」「新鮮な食物が手に入る」「時間の流れがゆったりとしている」などが挙げられます。

（ウ）まちづくりの優先事項と社会活動に関する重要度



対象となる設問

【問9】　まちづくりについて特に優先して取り組むべき項目
【問11】　実際に参加した（している）社会活動

特に重要な設問・回答

【問9】まちづくりについて特に優先して取り組むべき項目度に対する回答
- ■9-1　全町民と行政の協働まちづくり・運営が推進されるまち
- ■9-2　基幹産業と産業や生活を支える業種がともに発展する自立可能なまち
- ■9-3　定住・関係・交流人口や移住者施策を推進する持続可能なまち
- ■9-5　豊かな自然、特色ある歴史文化等の資源を活かすまち
- ■9-9　健康・福祉・医療施策が充実し独居高齢者でも安心して住み続けられるまち
- ■9-10　結婚・妊娠・出産・子育てを一貫して支援し、子育て世帯と子供を大切にするまち
- ■9-12　若者が活躍・定着できる魅力的な職場づくり、各職種人材が確保・育成されるまち

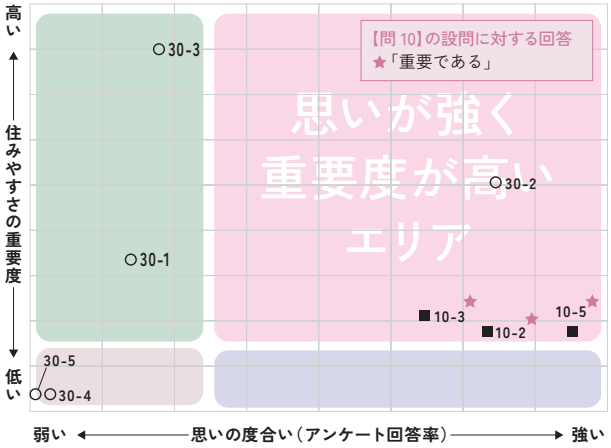
【問11】実際に参加した（している）社会活動に対する回答
- ○11-1　子どもの教育や健全な育成に関する活動
- ○11-3　環境保全に関する活動（森林・海の保全や生き物の保護、環境美化など）

「小値賀町のまちづくりの優先事項」「小値賀町の社会活動への参画」についてまとめました。

「小値賀町のまちづくり」に関しては「独居高齢者でも安心して住み続けられること」「若者が活躍できる魅力的な職場づくり」「基幹産業と産業や生活を支える業種の発展」は、町民意識と重要度が高い傾向にあります。

また社会活動に関して、「環境保全に関する活動」「子供の教育に関する活動」は、町民意識と重要度が高い傾向にあります。

（エ）町民主体のまちづくりと幸せ度に関する重要度



対象となる設問

【問10】　町民主体のまちづくり
【問30】　幸せ度

特に重要な設問・回答

【問10】町民主体のまちづくりに対する回答
- ■10-2　小値賀を支えるまちづくりの推進組織やリーダーの育成を図る
- ■10-3　小値賀に関わる外部のあらゆる関係機関・団体・個人と連携・協働体制を構築する
- ■10-5　若者が活動しやすい環境の形成に取り組む

【問30】幸せ度に対する回答
- ○30-1　（幸せ度に対して）とても幸せである
- ○30-2　（幸せ度に対して）まあまあ幸せである
- ○30-3　（幸せ度に対して）どちらでもない
- ○30-4　（幸せ度に対して）あまり幸せではない
- ○30-5　（幸せ度に対して）幸せではない

「町民主体のまちづくり」「町民の幸せ度」についてまとめました。

全体を通してみてみると、「まあまあ幸せである」という意識が高く、「どちらでもない」「とても幸せ」程度の幸せ度の回答が「住みやすさ」に対して重要度が高い傾向です。

つまり「どちらでもない」「とても幸せ」の各幸せ度が高いことが、「住みやすさ」の意識を高めている要因だとわかります。

（2）おぢか未来会議

本町在住の小学生・中学生・高校生に向けて行った「未来会議」は、こども達の声にしっかりと耳を傾けられる機会となり、貴重な意見を収集することができました。

これから未来を担い、まちを支えていくのはこども達であり、その声は小値賀町のまちづくりにしっかりと反映させる必要があります。

①小学校編

	1位	2位	3位
小値賀にあったらいいもの	遊園地	コンビニ	ゲームセンター
小値賀での困りごと	遊び場が少ない	空き家問題	休日にすることがない・暇
小値賀にしてほしいこと	遊び場・遊具・アスレチックを増やす	ゲームセンターをつくる	コンビニ
小値賀といえば	海	魚	人
小値賀の好きな場所	海	柿の浜	学校
ずっと小値賀に住みたい？	ほかのところに住んでもまた小値賀に戻りたい 43人	ずっと小値賀に住んでいたい 23人	島から出て他のところにずっと住みたい 9人

上記の表は、質問に対する回答の上位３つをまとめたものです。

「小値賀にあったらいいもの」「小値賀での困りごと」そして「小値賀にしてほしいこと」では、遊び場に関する内容が上位にあがり、小学生らしい回答ながら、それぞれ小値賀らしい遊びの場を考え、求めていることがうかがえます。

「小値賀といえば」「小値賀の好きな場所」では、海に関する内容が目立ちます。

「ずっと小値賀に住みたい？」では、82人中65人（79.2%）が小値賀に戻りたい、ずっと住んでいたいと答えており、その想いをずっと持ち続けられる取り組みを考えなければなりません。

②中学校・高校編

○ 小値賀中学校

区分	内容
景観	・いつまでも今の景観が残っている小値賀。美しい自然で溢れた小値賀。 ・美しい自然の中で牛とか他の動物が幸せそうにしている小値賀。 ・小値賀を出た人が戻ってきた時に「変わってないな～」と思える小値賀。 ・海がとても綺麗で遊んでいる人達が多いので、海ゴミを無くして安全に遊びたい。
特産物	・昔みたいに海産物がとれるようになって欲しい。特産物がずっと残るといい。 ・特産物の種類があまりない（あっても大半が魚。もっとアピールして欲しい） ・郷土料理がもっと色んなところで食べられる小値賀。
人	・いつまでも元気な小値賀。人々が協力していく小値賀。 ・地域の人たちで賑やかな小値賀。栄えて人がたくさんくる小値賀。 ・存続し続けられる小値賀になって欲しい。 ・悪い噂が立たない小値賀。お年寄りに優しい小値賀町。 ・人がたくさん触れ合う小値賀町。人の繋がりがある小値賀。
娯楽	・飲食店だけではなく、本屋や100均などの店も作って欲しい。 ・こどもが遊べる遊具を増やし、楽しく遊べるようにして欲しい。 ・若者向けに店を作ったり、お年寄りも楽しめる町にしたらいい。
観光行事	・地域行事を継承していって欲しい。伝統の継承。 ・小値賀と聞いて「あの島だよね」と知っていてもらえるような島。
学校・仕事	・小値賀から出なくても稼げる。働く場所が欲しい。 ・学校が選べるような小値賀になって欲しい。
交通	・佐世保などに行く移動手段が増えて欲しい。 ・フェリーが速くなって欲しい。事故のない町。外灯が増えて欲しい。

○ 北松西高校

区分	内容
景観	・誰もが住みやすい小値賀へ。道端が整備されている島。 ・いつまでも自然豊かな島。松が元気に育ってくれる島。海が綺麗で自然豊かな島。 ・今までの小値賀の景観を壊さず、後にも残していけるような所。
人	・地域のみんなが幸せに暮らせる町。みんな笑顔が絶えない島。 ・笑顔が絶えない島。悪い噂に流されない。偏見を持たない人が増えて欲しい。 ・どんな人が、どんな時に訪れても楽しいと思える島。 ・島民同士が協力し合い、小規模ながらも活気のある島。
若者	・若者が主役となる島。若者が活気付いてる小値賀島。 ・若者向けのものを取り入れたい。
観光・文化	・活性化された町。活気溢れる島。 ・伝統や文化が受け継がれている島。 ・コロナウイルスを考えずに今まで通り行事が行える島。 ・観光が楽しめる。観光客が多い賑わいのある町。
仕事	・農業・漁業の後継者。幼児教育の充実。

中学校・高校では、五感から小値賀の魅力や現状に関する意見を出し合い、それをもとに、こうなったらいいなという小値賀の未来を考えました。

海ごみや松枯れなど、自然景観への愛着と関心の高さ、人と人との繋がりに関する魅力と、近すぎることでの弊害、また小値賀で稼げる、働く場所づくりなどの課題があげられました。

③町民編

町民によるおぢか未来会議は、令和３年度から４年度まで、計４回開催され、延べ９２名の方にご参加いただきました。1回目では、「おぢかのヨカ」「おぢかのカエタカ」として、**小値賀の良いところ、変えたいところ**の意見を出し合いました。

２回目では、**出た意見を「目指すまち（島）の姿」の８つに分類わけ**し、目指す姿毎に、**「すぐできること」「だんだんできること」「時間がかかること」の時間軸別に分類**しました。

そして、３回目では、取り組みを**町民、地域等、行政**のどこが担うのかについて考えました。

８つの**「目指すまち（島）の姿」**について、町民みんなで、どんな取り組みが必要か、意見を出し合いました。今回は、８つの目標のうち、「住み続けたいと思える島」を実現に向けた、町民の考えや意見をご紹介します。

「住み続けたいと思える島」			
必要な取り組み	町民力　（自分や家族でできること）	地域力　（地域でできること）	行政力　（行政の役割）
すぐできること			
生活に必要なものがある	島にあるものは島のものを利用する	島内にあるものは島内で手に入れる	何が必要かリサーチする（アンケート）、 商工会や役場で島民にアンケートをとる
安心感、一体感がある	うわさ話をへらす、人の悪口を言わない、噂話を鵜呑みにしない、 周りにきくばりできる余裕、行動を継続する	手作り感を楽しむ（イベント事など）	
若者がイキイキしている	若者なりの考え・発想を発信していく	若者同士の交流 →みんなで何かを作るようなイベント、ワークショップを企画する、どんなことをやりたいかアンケートをとる	
人口を増やす		SNSを活用する、移住者に特化してアピールする	農業、漁業に関連した仕事を作る （養殖、大規模農業など）
若者を増やそう	高校生メインの交流会（生徒会、生徒全体で話し合う）	観光客兼従業員の仕組みをつくる、 若者に来てもらう、若者育成プログラムを充実する	保証・補助が充実している
だんだんできること			
生活に必要なものがある		食品以外のお店の充実	小中高を残す、島内の入学生・留学生を増やす仕組みづくり
安心感、一体感がある	偏見の目を持たない、価値観の違いを理解する	行事を積極的に！（町レク、祭り）、回覧板、宣伝などを売って周知していく	
若者がイキイキしている	時代の違いを理解する	若者に運営を任せる	発表の場、町に意見をいう場を増やす
人口を増やす		定住策を充実する、人口が減っても維持できる島	住宅を増やす、住宅を新築する、シェアハウスを建設する
若者を増やそう	昔ながらを活かす	U・Iターンを充実する	島の特権を作る （フェスで優先、おっとんけんがつくなど） …小値賀のものを買ったら何か特典がついてくる
時間がかかること			
生活に必要なものがある			信頼できるお医者さんを呼ぶ 必要なものを島に呼ぶ、育てる
安心感、一体感がある			人口が減っても維持できる仕組みづくり 育児・介護の支援が充実している 育児・介護をしている人にアンケートをとる
若者がイキイキしている		学校での探究活動の時期をずらす、 もっと研究の時間を増やす、若者起業家育成	
人口を増やす		働く場所を増やす、ワーキングスペース（リモート）でできる場を作る	ハイテクの島にする
若者を増やそう			働くところを増やす、たりない職種を調整する 島から時間をかけずに移動したい、航空便を再度増やす

3.配慮すべき社会の流れ

本計画の実現にあたって、大きな影響を及ぼすと考えられる社会の流れを記載します。これらについては、役場内はもちろん、町民や地域も含めた横断的な取組みが必要であり、「おぢから横断プロジェクト」（P46参照）として推進します。

（1）SDGs（エスディージーズ）

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略称であり、日本語で「持続可能な開発目標」と呼ばれます。2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットからなる国際目標です。

SDGsは、貧困、飢餓、不平等、気候変動など、世界が直面するさまざまな課題を解決するために、世界中の人々が協力して取り組むことを目的としており、すべての国やすべての人々が、2030年までに持続可能な開発を達成することを目指しています。世界中の人々が協力して取り組むべき目標であり、私たち一人ひとりができることを考え、行動していくことが大切です。

（2）安心安全に対する脅威の拡大

台風や局所的豪雨、地震など想定を上回る自然災害をはじめ、新型感染症や平和を脅かすテロ行為や紛争など、いつ起きてもおかしくない脅威が拡大しています。

また、暴力やいじめなどの事件、インターネット社会におけるSNSを通じた新たな犯罪やサイバー攻撃、高齢者による交通事故の増加など、国民の生命と財産、暮らしへの脅威に対し、対策の充実が求められています。

（3）デジタル化の急速な進展

近年、ＩｏＴやＡＩ技術、クラウドシステムなどの新たなデジタル技術が急速に社会に浸透しています。様々な課題をデジタル技術で解決し、人々が心豊かに充実したWell-being（個々にとって善い状態）で長く快適に暮らし続けるために必要な環境・経済・社会の「持続可能性」を実現すべく、その取り組みが進められています。

国では、高齢化や過疎化などの社会課題に直面する地方にこそ、新たなデジタル技術を活用するニーズがあることに鑑み、デジタル技術の活用によって、地域の個性を活かしながら、地方を活性化し、持続可能な経済社会を実現するデジタル田園都市国家構想を推進しています。

デジタル技術活用の代表例としては、ＤＸ（ディー・エックス）があげられます。DXとは、「Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）」の略で、データとデジタル技術を活用し、生活や経済、社会全体をより良く変革していくことです。自治体においては、人口減少が進んでも持続可能な行政サービスを提供するため、DXで業務効率化を図り、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげていくことが期待されています。

（4）シティプロモーション

シティプロモーションとは、地域の魅力や価値を内外にアピールし、地域の活性化を図る取り組みです。シティプロモーションが効果的に行われることで、地域の認知度や知名度の向上、地域への移住や観光の促進、地域の産業や経済の活性化、地域の課題解決やまちづくりの推進などが期待できます。

近年、シティプロモーションの取り組みは、デジタル技術を活用した取り組みや、地域の課題解決やまちづくりと連携した取り組みが注目されています。デジタル技術を活用することで、地域の魅力をより効果的に伝えることができます。また、地域の課題解決やまちづくりと連携することで、地域の活性化につながるより効果的な取り組みを行うことができます。

シティプロモーションは、地域の活性化と持続的な発展のために、今後もますます重要になる取り組みです。

（5）人口減少、超少子高齢化社会

人口減少、超少子高齢化の背景には、価値観の変化や経済的な事情などによる未婚化、教育やキャリアの充実などによる晩婚化の進展、それらに伴う出生率の低下、医療技術の進歩や生活水準の向上などによる健康寿命・平均寿命の延伸などが挙げられます。

人口減少、超少子高齢化は、日本にとって深刻な問題であり、対策を検討していくことが重要です。